

「現イスラエル政権・イスラエル軍による

ガザ空爆と侵攻に抗議する声明」

私たち西小倉めぐみ教会は、日本にある小さな教会です。信徒のほとんどは重い病や障がいを抱える人、様々な理由から社会に対してひきこもりがちな若者、そしてその家族です。そして、ひとりひとりの命を大切にする立場から、社会の課題にも取り組んでいます。

広い意味では、イスラエルの人々と、ムスリムの人々と、私たちは同じ「聖書の民」です。平和(シャローム)について、ヘブライ語のもとの意味は「どこにも傷の無い平和」であると教えられ、破壊を行い無差別に人を殺して傷つける先に平和はないと、学びました。しかし戦争の悲惨は、「人間を人間として見なくなることにありました。

ガザでの空襲や侵攻を見ていると、かつての日本軍による南京虐殺事件や、朝鮮植民地支配を思い起こします。若者に犠牲を強いた特攻隊がありました。そして住民を巻き込んだ悲惨な沖縄地上戦、また各都市への空襲、広島・長崎の原爆を思い起こします。尊い命を蔑ろにした、悔恨の記憶です。だからガザはこうして、他人事ではないことを心に覚えます。残酷な侵略・ジェノサイドの歴史は、繰り返してはいけません。

ですので平和(シャローム)のため、私たち小さな群れも声を上げたいと願いました。そして、以下の声明をいたします。

- 一、私たちは休戦だけではない、イスラエル軍による空爆と侵攻の停止を求めます。また停戦を阻み戦闘を支援する勢力を非難します。
- 一、私たちは平和的交渉によって、相互の人質が解放されることを願います。
- 一、ガザから住民を追い出す一切の行為と、軍事的支配に抗議します。
- 一、戦争の温床ともなるあらゆるヘイトクライム(偏見/差別による憎悪犯罪)に反対します。
- 一、ガザはじめパレスチナを、人々が共存して住めるよう復興するため、国際社会が協力し合うことを求めます。

2023年12月10日

宗教法人日本基督教団 西小倉めぐみ教会

教会員一同

代表役員(牧師) 棚谷直巳